

## はじめに

平成23年3月11日、東日本を襲った巨大地震は、大津波、そして原子力発電所の事故と相まって、想像を絶する甚大な被害をもたらした。

あの日から、10か月が経とうとしている今、復旧・復興へ向けた取り組みが少しずつ動き出しているものの、その爪跡は深く、期待するスピード感にはまだまだ遠い状況が続いている。

特に、原子力発電所事故の影響を大きく受けている福島県は、多くの県民が避難を余儀なくされている状況下であり、先の見えない中で、厳しい戦いを強いられているのが現状である。原子力発電所事故は終息するのか、いつになれば従前の生活を取り戻すことができるのか、原子力災害という経験したことのない敵との戦いが続いているのである。

一方、こうした厳しい状況下にあっても、地域を守るため、会社・従業員を守るため、生活を取り戻すため、必死の努力を続けている多くの人々の姿がある。信じられない現実と闘い、一日も早く平穏な日々を取り戻すべく、慣れない土地で必死の努力を続けている姿である。

私ども中小企業診断協会福島県支部は、こうした復興への取り組みに微力ながらも参加すべく、今般、調査研究事業をスタートさせたものである。調査研究にあたっては、復興に積極的に取り組んでいる浪江町商工会に焦点をあてさせて頂き、ご協力をお願いした。

浪江町商工会は、会長はじめ商工会役職員が県内各地に避難する中、商工会として何が出来るのかを模索し、震災後半年の間に2回のアンケートを実施、会員の絆を繋ごう、浪江町への全員での帰還のためには何が出来るか考えようと懸命の努力を続けている。会長、副会長はじめ多くの会員が会津等避難先から商工会移転先の二本松に集まり、復興に向けて闘う姿に被災した方々の力強さを見た次第である。

我々、中小企業診断協会もこうした厳しい状況下で何が出来るのか、暗中模索の中で踏み出した感は否めないが、まずは会員事業所の現状、事業再開への取り組み状況等を伝える中で、初期段階の復旧・復興へのヒントを探していきたいと考えたところである。

また、今回この調査研究事業に着手するにあたって、全国の中小企業診断協会から多大なるご支援をいただいたことが大きな力になっていることを付け加えておきたい。我々が全国の同志に背中を押していただいたように、我々自身もほんの少しの力ではあるが、浪江町、そして双葉地方、ひいては福島県の復興へ一役買えるよう努力をしていきたい。

なお、こうした強い想いが前面に出て、やや角ばった表現になっている部分、また、被災されている方々のお気持ちに触れるような表現等もあるのではないかと危惧している。何らかの役割は果たしたいとの強い思いに免じて、お許しいただきたい。

原子力災害との戦いは、長期戦になることが予想される。長い道のりかもしれないが、多くの人々の心を繋ぐ中で、いつの日にか従前の温かい暮らしが取り戻せると信じてやまない。

事業再開に向けた浪江町商工事業者の方々の厳しい現状と再開への取り組みを通して、これから事業再開や新規創業を目指す浪江町、そして双葉郡の事業者の方々のいくばくかの参考になれば幸甚である。各種支援の充実・継続への願いを込めて、この調査研究自体も長期的視点で取り組んでいきたい。

一日も早い復興を祈りつつ。

中小企業診断協会 福島県支部  
支部長 佐々木讓司

プロジェクトチーム

顧問 渡辺 正彦  
リーダー 佐藤 稔  
三浦 政一  
藤田 一巳  
佐藤 健一  
円谷 正夫  
高城 卓也  
宮下 恵洋  
野尻 豊  
小林 清和  
遠藤 明  
望月 雅広

## 目次

はじめに	
<b>第1章</b>	<b>浪江町の歴史と東日本大震災</b>
1	浪江町、浪江町商工会の歴史と現状 2
	(1)浪江町、双葉郡のプロフィール 2
	(2)浪江町商工会の歴史と震災前の状況 12
2	東日本大震災と震災後の浪江町商工会 15
	(1)震災後の全体概要 15
	(2)浪江町商工会の現状 22
3	まとめ 29
<b>第2章</b>	<b>アンケートから見た浪江町商工会会員事業者の実態</b>
1	第1回アンケート 34
	(1)調査結果分析 34
	(2)調査結果 35
2	第2回アンケート 37
	(1)調査結果分析 37
	(2)調査結果 38
3	まとめ 48
<b>第3章</b>	<b>事業再開に向けた個別企業の取組み事例</b>
1	浪江貨物自動車株式会社 52
2	有限会社横山物産 56
3	株式会社ナプロフクシマ 60
4	有限会社八島運送 63
5	東北工業建設株式会社 67
6	株式会社ダイイチ 71
7	マツバヤ ■
8	伊藤商店 ■
9	杉乃家 ■
10	株式会社鈴木酒造店長井蔵 ■
<b>第4章</b>	<b>浪江町商工会会員事業所の闘いの軌跡</b>
	骨子図 ■
1	東日本大震災の衝撃 ■
	～決して忘れてはならない、大震災被害の大きさと原発事故避難のむずかしさ～
2	アンケート・ヒアリング調査から見えるもの ■
	(1)事業再開の明暗 ■
	(2)事業再開の難しさ ■
3	今後に向けた課題 ■
	(1)原子力発電所事故補償のあり方について ■
	(2)県内避難・県外避難の支援の差 ■
	(3)今後に向けた支援・要望 ■
	(4)個人の生活面への充当 ■
	(5)帰還の考え方 ■
4	最後に～今後に向けて～ ■
	補足 国・県による主な支援施策 ■
寄稿	今後に向けて ■
	浪江町商工会長からの今後に向けたメッセージ ■
追録	支部研修会講演録 ■
おわりに	



表紙写真:「さあ、元気を出してスイングしよう！」  
溝口 泰信